

中国政府の(袁世凱)は、1915年5月9日要求を受け入れましたが、以後この日を『**国恥記念日**』として反日運動の重カキが高まりました。

小隈みを記念日に
する、ってどゆーこと?!

裏話

教科書には、日本が武力を背景に要求の大部分を認めさせたとあり、日本、てふどい!! と思うかもしれませんが、これは実は間違いです。

中国にはめられた日本、外交が雑技出し

実は「二十一か条の要求」は、日本と中国双方納得の上での話だったものを、中国側から「要求」という形にして、やむなく調印したという形にしてほしいと申し出があり、日本側はあえて「要求」という形にしました。

(ちなみに、山東省の権益継承は、敵国(ドイツ)から自国を守るために、権利の所在を明確にしておくことは当然のことです。この権益は1922年国際協調を重視した日本が中国側に返還しています。

(追伸: イギリスは1997年まで中国に香港を返還しませんでした)

つまり、日本は中国側の要望に応じただけでなく、軍事力による脅しなどを用いて認めさせたわけではないのです。

しかし袁世凱が密約を破り、国内外に向かって日本の横暴さを訴えたため、反日感情が高まり、日本を国際的に孤立させようという策略したものでした。

このことは当時の日本の外相加藤高明外務大臣だけでなく、中国に詳しいアメリカの外交官ラルフ・タウンゼント氏、また子系文も言っています。